

■ 在るがまま、なすがまま

お坊さんと赤ちゃんの話

- 5 昔の事です、古くて小さなお寺だけど、そこにとっても徳のある和尚さんがいました。和尚さんはお寺を建て直したいと思っていましたが、仲々実現できませんでした。

そのお寺の檀家の中に、大きな商店を経営していて、和尚さんをとっても尊敬している方がいました。

- 10 ある時に、その方の娘が妊娠してしまいました。
“相手の男は誰だ！”と父親が問いつめますが、娘は名前を言いませんでした。

- やがて子供が生まれてしまって、父親は本当に強く“父親は誰だ！”と娘に迫ったので、娘は困って、父親が一番尊敬している和尚さんだと言えれば許してくれるだろうと思って、
15 “お寺の和尚さんです。”と言いました。

- それを聞いた父親は、“なに、あの坊主か！ あのくそ坊主め！”等々悪口を怒鳴って、娘から赤ん坊を奪い取ってお寺に乗り込んでいき、和尚さんに“ホレッ！ お前の子だ！受け取れ！”と、赤ちゃんを投げつけて渡して、いろいろな悪態
20 を言って帰りました。

和尚さんはビックリしましたが、“ああ、そうかそうか。”と言って赤ちゃんを受け取りました。



- 25 それは冬の寒い時期だったので、それからの和尚さんは赤ん坊を抱いて暖めながら、あつちこつちに乳の出る女性の所にもらい乳に廻り、おむつを作り大変な苦勞をして、2、3ヶ月経ちました。

- そんな様子を娘は物陰から見ていてどうしても堪らなくなり、意を決して父親に、“本当
30 の父親は従業員の男です。お父さんは和尚さんを尊敬しているから、和尚さんだと言えれば許してくれると思ったのです！”と言いました。

- それを聞いた父親は、それこそビックリして、大あわてで和尚さんの所に飛んでいき、平身低頭お詫びをして、“その赤ん坊を返して下さい。”とお願ひしましたら、和尚さんは
35 “ああそうかそうか。”と言っただけで返してよこし、苦勞した事など何も言いませんでした。

この商店主は増々和尚さんに心酔してしまい、この人が中心になって他の方々にも働きかけて、お寺を建て直しました。

- 大きく立派になったお寺で、和尚さんは増々皆さんに慕われ尊敬されて、幸せに暮らした
40 そうです。

いかがですか！

『神』はその人の希望を叶えて下さる時には、こんな風にして叶えて下さるのです。